

# 令和6年度第1回 泉佐野市環境衛生審議会 会 議 会 録

- 1 日時 令和7年1月28日(火)午後3時00分～4時10分
- 2 場所 泉佐野市役所 5階 第2会議室
- 3 議題 諮問事項  
泉佐野市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)の策定について
- 4 出席者等
  - 出席委員
    - 松浪 雅彦 (泉佐野市町会連合会会長)
    - 左近 哲也 (泉佐野地区公衆衛生協力会会長)
    - 内田 智之 (公益社団法人泉佐野市人権協会副理事長)
    - 土屋 誠 (泉佐野保健所生活衛生室長兼衛生課長)
    - 伊東 恵美子 (いずみさの女性センターネットワーク)
    - 赤阪 佳代子 (市民公募)
    - 立石 尚子 (市民公募)
  - 欠席委員
    - 金野 泰之 (泉佐野商工会議所会頭)
  - 市出席者


市 長	千代松 大耕
政策監兼生活産業部長	宗野 公保
生活産業部環境エネルギー担当理事	林 豊
環境衛生課長	梅本 正樹
環境衛生課長代理	奥野 秀樹
環境衛生課環境係 主査	田中 健一
環境衛生課環境係 主査	豊田 雄資
- 5 傍聴者 ( なし )
- 6 審議記録(抜粋)
  - ① 開会～配布資料確認(司会)
  - ② 委員紹介
  - ③ 市出席者紹介・市長挨拶
  - ④ 宗野臨時議長進行により会長に松浪 雅彦氏、副会長に内田 智之氏を選出
  - ⑤ 松浪会長より就任挨拶
  - ⑥ 市長より諮問～諮問書読上

⑦ 市長退席

⑧ 審議（これより松浪会長を議長とした議事進行）

## 7 議事録

### 【松浪会長】

只今、千代松市長より本審議会に「泉佐野市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」の策定について諮問がございました。事務局より、諮問内容の説明を頂いた後、委員の皆様方にご審議をお願いしたいと存じます。まず、事務局より説明をお願いします。

### 【事務局・田中主査】

今回、策定予定の泉佐野市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）は、「地球温暖化対策の推進に関する法律」（温対法）第21条第4項で、市町村（指定都市等を除く。）は、地方公共団体実行計画を策定に努めるものとする。と努力義務になっています。環境省のHPによると、大阪府内の市町村では、令和5年10月1日時点で、45%の自治体が策定している状況であります。

地方公共団体実行計画（区域施策編）は、国の地球温暖化対策計画に即して、その区域の自然的社会的条件に応じて、温室効果ガスの排出量削減等を推進するための総合的な計画であって、計画期間に達成すべき目標を設定し、その目標を達成するために実施する措置の内容を定めるとともに、温室効果ガスの排出量削減等を行うための施策に関する事項として、再生可能エネルギーの導入、省エネルギーの促進、公共交通機関の利用者の利便の増進、緑化推進、廃棄物等の発生抑制等循環型社会の形成等について定めるものであり、泉佐野市域全体での計画であります。

すでに策定している泉佐野市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）は、泉佐野市の事務・事業に関する計画となっています。

泉佐野市は2021（令和3）年9月に、「泉佐野市気候非常事態宣言」を表明し、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロ、カーボンニュートラルを目指すために、より具体的な取組、計画を策定、推進していくために、今回、本計画を策定することにしました。

カーボンニュートラルを目指すと申しましたが、このカーボンニュートラルとは、温室効果ガスについて、「排出量から吸収量と除去量を差し引いた合計をゼロにする」ことを意味します。つまり、排出を完全にゼロに抑えることは現実的に難しいため、排出せざるを得なかったぶんについては同じ量を「吸収」または「除去」することで、差し引きゼロ、正味ゼロ（ネットゼロ）を目指しましょう、ということです。

それでは、P2を開いてください。本計画の目次、以下の1～6の内容、タイトルでまとめております。順に説明させていただきます。

P3を開いてください。1. 区域施策編策定の基本的事項・背景についてです。気候変動問題は、最も重要な環境問題の一つとされており、既に世界的にも平均気温の上昇、雪氷（せっぽう）の融解、海面水位の上昇が観測されています。IPCC（気候変動に関する政府間パネル）の報告書では、人間の影響が大気、海洋及び陸域を温暖化させてきたことには疑う余地がないこと、大気、海洋、雪氷圏及び生物圏において、広範囲かつ急速な変化が現れていること、気候システムの多くの変化は、地球温暖化の進行に直接関係して拡大することが示されました。今後、地球温暖化の進行に伴い、このような猛暑や豪雨のリスクは更に高まることが予測されています。

国際的な動向としましては、世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃より十分低く保つとと

もに、1.5°Cに抑える努力を追求するために、CO<sub>2</sub>排出量を2050（令和32）年頃に正味ゼロとすること、2050年（令和32年）までのカーボンニュートラルを目標とする動きが広がりました。

日本国内では2020（令和2）年10月に2050（令和32）年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことを宣言し、翌年には、2030（令和12）年度の温室効果ガスの削減目標を2013（平成25）年度比46%削減、さらに、50パーセントの高みに向けて、挑戦を続けていく旨が公表されました。

また泉佐野市でも2021（令和3）年9月に、「泉佐野市気候非常事態宣言」を表明し、国と同じ削減目標に向けて、取り組んでいくこととしました。

P6を開いてください。本計画では、2013（平成25）年度を基準年度とし、2030（令和12）年度を目標年度として、（4）の推進体制、泉佐野市環境衛生審議会を諮問機関として、本計画を策定し、市民、事業者、市などが一体となって、進めていきたいと考えています。

P7を開いてください。2. 温室効果ガス排出量の推計についてです。環境省のHPより、自治体排出量カルテというものが公表されており、その中で泉佐野市域全体でのCO<sub>2</sub>排出量を把握することができます。真ん中の表、数字だけ記載のグレーのものですが、その中の最新年度2021年（令和3年）度では、年間51万1千トンのCO<sub>2</sub>が排出されています。P7のグラフ、表なども環境省HPに掲載されているものになります。

またP8-10では、泉佐野市区域での温室効果ガスの将来分析・予測について掲載しています。これは、2023年に策定した「泉佐野市再生可能エネルギー導入計画策定」の中で推計した3つのシナリオを掲載しています。

1つめは、BAUシナリオ。人口や経済など将来の活動量の変化は想定するものの、CO<sub>2</sub>排出量の削減に向けた対策・施策の追加的な導入は行わないと仮定したシナリオです。

2つめは、省エネシナリオ（低位）。活動量の変化に加え、省エネ等のCO<sub>2</sub>排出量の削減に関する対策・施策の導入を想定したシナリオです。

3つめは、省エネシナリオ（高位）。活動量の変化に加え、カーボンニュートラルの実現に向けて意欲的な対策・施策の導入を想定したシナリオです。

P9の真ん中のグラフ、BAUシナリオでは2050年度のCO<sub>2</sub>排出量は、現在とあまり変わらず年間約59万トン、電力に換算すると、約339万Mwh。

下のグラフ、省エネシナリオ（低位）の場合、2050年度のCO<sub>2</sub>排出量は年間約27万トン、電力に換算すると、約155万Mwh。

P10のグラフ、省エネシナリオ（高位）の場合、2050年度のCO<sub>2</sub>排出量は年間約16万トン、電力に換算すると、約92万Mwh。

この部分、必要な電気、約92万Mwhを再生可能エネルギーによる発電にすることで、カーボンニュートラルの実現が可能と考えられます。

P11を開いてください。3. 計画全体の目標について、です。

本計画では対象とする温室効果ガスは、二酸化炭素のみとしています。

下の（2）の目標のとおり、2013（平成25）年度を基準年度とし、2030（令和12）年度の削減目標46%としています。最新把握年度である2021年度の実績51万1千トンなどをふまえて、各部門の削減目標を設定しています。各部門の内容についてはP12のとおりです。

P13を開いてください。4. 温室効果ガス排出削減等に関するポテンシャル調査についてです。こちらでも2023年に策定した「泉佐野市再生可能エネルギー導入計画策定」の中で、泉佐野市域での再生可能エネルギーのポテンシャルを調査していますので、そちらを掲載させて頂いています。

太陽光発電、風力発電、中小水力発電、バイオマスエネルギー、地熱発電の5つのポテンシャルを調査したところ、太陽光発電は、P14より年間約89万Mwh。風力発電はP15より、年間約6万Mwh。バイオマスエネルギーは、P16より年間約4万Mwh。地熱発電は、P17よりポテンシャルなし。中小水力発電は、年間約450Mwhと少なく、費用対効果を鑑みると実現困難と判断しました。

再生可能エネルギー導入のまとめとしまして、P18を開いてください。本市域の再エネポテンシャルは、年間最大99万Mwhとなりました。先ほどの、省エネシナリオ（高位）の場合、意欲的な省エネに取り組むことにより、必要な電力が約92万Mwhでありました。すでに泉佐野市区域で導入されている再生可能エネルギー約3万Mwh/年を除外して、本市の再エネ導入目標は、最終目標として2050年に年間約89万MWh、中間目標として2030年に年間約10万MWhとしました。

P19を開いてください。5. 温室効果ガス排出削減等に関する対策・施策についてです。ここでは、温室効果ガスの排出を削減するための具体的な取組について掲載させて頂いています。再生可能エネルギーの導入、省エネルギー対策の推進、地域環境の整備、循環型社会の形成の大きく4つに関する対策・施策です。

1つ目の、再生可能エネルギーの導入については、太陽光発電システム設置補助金を一般家庭、事業者に対して交付することで太陽光発電システム導入を推進していきます。

また民間の発電事業者、一般財団法人泉佐野電力、ため池を管理している地元土地改良区などと協力して、市所有ため池への水上太陽光発電システム導入を推進していきます。

太陽光発電システム以外の再生可能エネルギーとして、木質バイオマス発電所の設置を進めていきます。P20の真ん中に、木質バイオマスについての説明を掲載しています。

木は、大気中の二酸化炭素の吸収・固定を行っています。木をエネルギーとして燃やすと二酸化炭素を発生しますが、この二酸化炭素は、木の成長過程で再び吸収されることとなります。このように、木材のエネルギー利用は、大気中の二酸化炭素濃度に影響を与えないというカーボンニュートラルな特性を有しています。このため、化石燃料の代わりに木材を利用することにより、二酸化炭素の排出の抑制が可能となり、地球温暖化防止に貢献します。また泉佐野市内の私有林の間伐材のみで発電することで、これまで放置されていた間伐材の有効活用、山の適正な維持管理、土砂災害の防止にもつながります。

2つ目の、省エネルギー対策の推進については、コージェネレーションシステム設置の補助金交付などにより、省エネ機器導入の推進、また市が率先して省エネルギー行動を推進していきます。さらに公共施設のLED化や、新庁舎の建設にはZEB readyを目指します。

3つ目の、地域環境の整備については、公共交通の利用促進や道路ネットワークの充実により、温室効果ガス排出量を抑制するためだけでなく、安全で快適な街づくりを目指します。また公共施設へのEV車充電器の設置を推進していきます。さらに森林整備の実施により、二酸化炭素吸収量の増加、未利用間伐材を木質バイオマス発電に有効活用していきます。

4つ目の、循環型社会の形成については、家庭ごみ、事業系ごみの減量化、資源化を推進していくために、サーキュラーエコノミー推進実証プロジェクトの実施、廃食油の回収にも取り組んでいきたいと考えています。以上が、具体的な取組についてとなります。

P23を開いてください。6. 区域施策編の実施及び進捗管理についてです。

本計画の進捗管理は、PDCAサイクルに基づいて行います。目標の設定を本計画で行い、その目標に向けて市民、事業者、市が連携して実施していきます。環境省の自治体排出量カルテの数値より、泉佐野市区域の温室効果ガス排出量について把握するとともに、その結果を用いて計画全体の目標に対する達成状況や課題の評価を実施します。目標年度を2030（令和12）年度としていますが、必要に応じて

計画内容の見直しを行います。

P24以降は、資料編となっています。

P25からは、「泉佐野市再生可能エネルギー導入計画策定」のときに行った地球温暖化に関するアンケート結果になります。市民アンケートはラインを通じたオンラインアンケート、事業者アンケートはアンケート用紙によるアンケートとなっています。最後のページP33での、アンケートの結果によると市民、事業者とも、現在の取組については、「省エネに取り組んでいる」という意見が多くありました。地球温暖化対策に関する経済的な負担については、「経済的な負担を最小限に抑えた対策を講じていくべき」という意見が半数以上でありました。今後、市に力を入れてほしい取組については、「環境教育」、「交通手段の低炭素化」という意見が多くありました。説明は以上になります。

#### 【松浪会長】

ありがとうございました。

それでは、只今説明がありました諮問内容について、ご質問・ご意見ございませんか。

#### 【土屋委員】

8ページのところでですね、ちょっと細かいところで申し訳ございません。8ページの上段のところに業務その他部分及び運輸部門における排出割合が大きい傾向にあるということで、泉佐野市さんの方が全国平均と比較するとここは大きいですと書かれておるんですけどもこれを何か要因というのは、何か、具体的に想定されることはあるのでしょうか。

#### 【事務局・林理事】

要因としましては、食品コンビニートとか、あと港湾の方でも、船舶が多いと思います。また、りんくうタウンの方にも、倉庫会社がたくさんありますので、その部分の物流の方が結構多いというふうに判断しております。

#### 【土屋委員】

それに関連してなんですけれども、P11のところですね、(2)区域施策編の目標というところで、運輸部門の削減目標が基準年度比、29%ということで他よりも、ちょっと削減目標が低い。これも何か、あまりちょっと削減が難しいところかなというふうになっています。

#### 【事務局・林理事】

トラックを動かすのは、まだ、化石燃料を使わなければならないというところもあり、あと、事業者様の方で、EVの方へシフトをしていくというのには、それぞれのご事情があるのかなというところで、これから国の方の政策を期待しながら、そういう化石燃料を減らしていくような、トラックが、増えればいいなというところですけど、今のところ、こういう形の推計にさしていただいております。

#### 【土屋委員】

関連でP12、これは確認ですけれども、運輸部門のところ、自動車、船舶、航空機、鉄道というふうを書いておられるのですけれども、策定のマニュアルなんかで航空機の部分というのはこの運輸部門に、含んでいないのかなと思うのですけれども、これは今回のCO2の削減目標では、航空機も入って

いるのですか。

#### 【事務局・林理事】

航空機は、含まないということで、今回のこの部分については、航空機の部分は含んでおりません。すいません。修正させていただきます。

#### 【立石委員】

P3にありますように、人類の生存基盤に関わる、最も重要な課題と言われていて、泉佐野市も、非常事態宣言を出したと説明が、私のアンテナが低すぎるのか、泉佐野市がそんなに積極的に危機感を持って取り組んでいるというメッセージが日頃生活していると、あまり伝わってこないのですけれども、P19からP22の対策・施策は、すごくよく考えられていいと思うのですけれども、この中にも含まれるかもしれないけれども、これと同じぐらい、重要な、柱として、この問題に関して、市民への啓発と、事業者に対する規制、罰則これが1つの柱になるぐらい大きいと思うのですね。

地球温暖化とか問題に関しては、もうどんどん、とにかく今までも、これからも経済発展が第1で、どんどんエネルギー使うから、そのエネルギーをどうやって、温暖化を防ぐようなエネルギーを作っていくかばっかりに焦点が当たっていると思うのですけれども、そういうことをしていいたら全然もう際限なくエネルギー使って、また、それはマッチポンプ状態なので、それよりも大切なのは、私たちの日頃のライフスタイルを見直して、このままでいいのかと思います。

こんなにエネルギー使って、こんなに物を消費してこんなに物を捨てて、そんなのでいいのかという根本的な意識を変更しましょうという問いかけから始めないと、いつまでたってもこの問題って終わらないと思うのですね。

もう結局、地球環境を守るには全部滅亡するしかないというふうに言っている人もいるぐらいなので、私たちがもっと謙虚になって、ライフスタイルを見直しましょうというような啓発活動を、一番大切なものと考えて、泉佐野市としてやっていただくと良いのじゃないかなと思うのです。

そのアイデアとして、例えば、広報の第1面に、いつもいつも、環境問題を取り上げて、カラーでぼんと出すとか、あと、そのメッセージも今回のこういう資料もそうなのですけれども、難しいとやっばりつつきにくいので、もっとやわらかく、イラストとかカラーにするとか漫画を組み入れるとか、誰が見てもわかりやすいように、そういうPRの仕方をするとか、あと、ごみ問題に関して、実は地域でもそういうセミナーしようかなと思ったのですけれども、ちょっと講演料が高くて断念してしまったのですけれども、吉本の芸人で、マシンガンズさんがごみ収集をやっているという方のお話の講演がすごく面白くて、その方、漫画の方も出していらっしゃって、あれを読むと誰でも、こんなにゴミ捨ててはいけないなっていう気持ちに自然になっていくと思うのです。ですので、この最後の工夫っていうところをもうちょっと力を入れていただいて、もっと、非常事態なのですから、市広報の本当に半分ぐらいのページを使ってもいいぐらいの非常事態だということを、その環境衛生の方か、誰に言うのか知りませんが広報担当の方か知りませんがそちらにもっと強く働きかけていただいて、ふるさと納税とか泉佐野市全国的にいろいろ有名でいいこともたくさんあるのですけれども、環境の泉佐野みたいな感じで、もっとPRしていただくと。そしたら、若い人口も増えるし住んでみたいなっていうのも増えるし、あと、自然環境もよくなるし、文化も芸術も盛んな、誰もが住みやすいような、泉佐野市になるのじゃないかなと思って。それぐらいの何か、熱意とエネルギーでPRしていただきたいなと思いました。長々とすいません。

**【事務局・林理事】**

今おっしゃっていただいた通り、本当に非常事態宣言と言いながら、あまり市民の方々に見えないようなと思いますが、ご存じかどうかわからないのですが、泉佐野市内でため池を活用して太陽光発電を用いて、泉佐野電力の方で、再生可能エネルギーを使用して、化石燃料をなるべく使わないようにということで泉佐野電力を立ち上げたところでございます。

今おっしゃっていただいた通り、何かしら啓発の仕方を考えていきたいと思っておりますので、ご意見ありがとうございました。

**【赤阪委員】**

追加で言わせていただきますと、私この資料を読んでも、自分にできることがないのかなと思うぐらい、今回の5. 温室効果ガス排出削減等に関する対策・施策というところで、太陽光発電システムの補助金交付だとか、そのお金をかけて何かするっていうことが一番に上がっていることがすごくショックでした。市民ができることを一番に持って行っていただけたら、何か力になるなっていう、家庭ごみ、プラスチックごみを減らすとか、そういうのを一番に持ってきていただいて、あと、余裕のあるところでお金をかけて、こういうこともやっていこうというふうにしていただけたら、市民としても協力して頑張りたいなっていう気持ちになると思います。

**【事務局・林理事】**

そうですね。文面の方ですね、整理させていただいて、今の意見をアピールさせていただきます。

**【伊東委員】**

私も、今回この資料を読ませていただいて、1回読んだだけでは、なかなか頭に入らなかったり、こんな取り組みもしているのか、初めて知ったっていうか、今まで何か知らなかったことだし、家庭の廃油も、どこで集めているのかっていうのもちょっと存じ上げなかったし、やはり小学生からこういう環境の問題について、やっぱり教育するっていうのが、すごく大事じゃないかなって思います。具体的に何をしているのだろうかっていうか、すぐにピンとこなかったんですけども、私たち、自分たちでできる限りのごみの分別だとか、ごみをあんまり出さないですとか、そういうのは努力しているつもりだけど、そういうのをやっぱり微々たるもので、やっぱりこの資料を見ても、家庭の、これもなんか削減が一番なんか大きいような感じで資料として出たので、まだまだ利益を上げないといけないような会社とか、なかなか難しいし、アメリカのトランプさん、どうなっているのっていうところもあったりして、あまりにもちょっと知らないことが多かったなというところがありました。

**【事務局・林理事】**

貴重なご意見いただきありがとうございます。廃食用油の回収は、現在、準備をしているところです。また、広報をさせて頂いて、環境衛生課の窓口へ持って来ていただくかたちで考えています。

**【土屋委員】**

今ちょっとお話もあった、環境教育のところですけども一番最後の33ページのアンケートの結果ですね、環境教育を積極的に取り組んで欲しいということが出ておるんですけども、そういったこ

とはこの計画の中で、市民の方がそういう機運を醸成し高めていくということで、何かこう動きたいというのは、されないというかこの計画自体が、たてつけが決まったものになっておるので、そういったものをここに書くべきかどうかというのはあるのかもわかりませんが、意見を踏まえればそういうのもちょっとどっかで入れていただけるとかなど。

**【事務局・林理事】**

おっしゃる通りで、長滝の方に、太陽光の第1発電所、第2発電所に、日根野イオンの方から子どもたちに、何か環境教育、太陽光発電のことで説明していただけないかという依頼があり、1度そういう機会を持たしていただいて、長滝第1、第2発電所について見学していただいたということもございます。また、郷の池、日根野の方に、ある池なのですが、そちらの方でも近所の子ども、お母さん方、太陽光発電の仕組みであるとかいうのをちょっと勉強会みたいな形で開かせていただいたってところもございます。これからも機会があれば、どんどんさせていただければなと思っておるところでございます。

**【松浪会長】**

ありがとうございます。他、質問ありますか。

それではないようでございますので、今回の案件につきましては、皆様方からいただきました貴重なご意見事務曲において取りまとめ、答申とさせていただきますと存じますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

はい。ありがとうございます。異議がないようでございますので、難しい問題とは思いますが、よろしくお願ひしたいと思ひます。それでは以上で泉佐野市環境衛生審議会の審議を終了したいと思います。どうもありがとうございました。審議会の答申につきましては、私の方で直ちに必要な手続きを取ることとさせていただきます。

以上で、泉佐野市環境衛生審議会の審議を終了いたします。

これをもって、本日の審議会を閉会いたします。

～終了～